

2022

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

アフターコロナを見据え、 新たな芽吹きへとつなげる一年に

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、一昨年と同様に新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年でした。そのような中で、市内医療機関や公共施設においてワクチン接種を行い、大きな混乱もなく、円滑に接種を進めることができました。これもひとえに市民の皆さま、医療機関をはじめとする関係者の皆さまの多大なるご理解とご協力の賜物と、あらためて感謝申し上げます。

新しい生活様式への適応や、新型コロナウイルスとの闘い一色に覆われていた中でも、喜ばしい出来事もありました。東京オリンピックでは、本市とゆかりのあるソフトボール日本代表が金メダルを獲得し、日本中を感動で包み込みました。「ソフトボールのまち」を掲げる本市といたしましても、今後の競技人口の増加に期待するところでありま

す。また、令和2年度のふるさと納税は、過去最高の寄付額となり、令和3年度には、さらなる増額が見込まれております。コロナ禍による「巣ごもり需要」が要因の一つとも考えられますが、ふるさと納税に限らず、今後も新たな財源の確保など、苦しい時こそ種をまき続け、アフターコロナを見据えた新たな芽吹きにつなげてまいります。

さて、今秋には樽川地区の石狩ふれあいの杜公園内に、大型児童センター「ふれあいの杜子ども館」がオープンします。公園内の立地を生かし、子育て世代の支援・交流の場として、新たな時代を生きる子どもたちの居場所づくりを進めてまいります。

本年は十干が「壬^{みづのえ}」、十二支が「寅^{とら}」の年に当たるので、干支は「壬寅^{みづのえとら}」となります。諸説ありますが「壬寅」は、厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となる年とも言われています。まさに、この



コロナ禍を乗り越え、地域経済を回復させ、さらなるにぎわいを創出し、新時代の成長に向けて確かな石狩の礎を築いてまいります。

結びに、新型コロナウイルスの一日も早い終息と、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

令和4年 新春

石狩市長 加藤龍幸



写真で振り返る/ 聚富保育園の思い出

令和4年3月をもって閉園する聚富保育園。

52年前の始まりから、懐かしい写真とエピソードで振り返ります。 ☎聚富保育園☎66・4241



昭和45年に行われた開所式。
聚富季節保育所としてスタートしました

エピソード 1 開所当時の聚富は“純農村”。春耕期から秋の収穫期が終わるまで、猫の手も借りたいほどの忙しさに、地元住民からは保育所開設を強く求める声が上がりました。それを受け、望来のお寺に開設したのが始まりです。

エピソード 2 当初は、5月～10月の6カ月間限定でスタートしました。やって来たのは25人の子どもたち。左の写真の開所式では、その子どもたちが元気な歌声を披露してくれたそうです。

エピソード 3 開所式のあとは、厚田から駆け付けた出口良枝さんによる紙芝居、厚田村役場の職員からは一人一人にキャラメルが贈られました。楽しいことがいっぱいの日になったようです。



運動会(昭和50年)



おゆうぎ会(昭和50年)

卒園生からのメッセージ



加藤由美子さん(昭和52年卒園)

私が通園していた時は聚富会館に保育園があり、懐かしく思い出されます。今の保育園でも仕事でいろいろとお世話になりました。閉園は寂しく感じますが、たくさん大切な思い出があります。



杉本奏美さん(平成16年卒園)

餅つきや節分の豆まきなど、季節ごとの行事が楽しかった思い出があります。先生方にもとても優しく接していただきました。ありがとうございました。

最後の園児3人に聞きました! 将来の夢は何ですか?



ゲーム
ユーチューバー

かい
石垣風依くん

ドーナツ屋さん

かなで
笹谷奏ちゃん

未確認生物を
紹介する
ユーチューバー

のぞみ
玉井希心くん